

1952
2

花折紙巻之中

○惣巻頭



傾城虎之巻

金魚作



傾城目録をうへに補圖乃上左の如しにて

るしを左門の御まありしは益其善の

國を傳へて是子よと吾子也とのて

好しといふより其孫子よと金をとて

つゝかのまてにあらはたきなりん事しと此

通言ありとも大なる事あり其輪軸墨より

あつていへてはやく向ふ持をとりてかん

見しよまてはやく思ふ事をしる法とて

中用之そとてあらは同善のとなりてお

はくそゝあら同善をわすれりめても紙味

更の一海よりいらし金魚父の著述あり

上はの巻をよみおまびませぬよとて

とありてふとちうにせむらひしむしむし
リ名者 末娘路如房ももあしむら
者ぐらうの字はしむらひは後しむら
たやうてもあつめ **四** ねたねたてしむら
子あつめがふれはしむらひはあつめ
ひよめい毎くしむらひはあつめしむら
つらうく



格子戲語

振替作

四 身あつめは通する者せしむら
とあつめはあつめ射御出敷あつめ
後者あつめしむらひはあつめはあつめ
あつめはあつめあつめはあつめはあつめ
へられしむらひはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ

あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ



客衆肝照子

系信作

四 子あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ
あつめはあつめはあつめはあつめはあつめ

なめてのうらうら [目] ともおもーらそ
あか飯やとあつらふらんらんこの
申 [目] いかにもとふともさうませ
ぬや人のうらりのひやんかんく



賣花新譯 似山作

[目] せこそあまらふのお答らん居まはあ
らねさけらうらそあうらうらうら
ふてらん一たの神あふれとことろさく
ちりほしとてあまらうらうらうら



東 西組日遊 三喜丸

[目] このまふ角かえり自落とあつて拍車
りわらさうらうらうらうらうら
つがよはたゆめとふりあつらうらうら
あつらうらうらうらうら



遊 儂窟烟花 二六伴作

[目] 紙屋次郎の後より [目] 次郎お所さ
りあのまふあれのけらうらうら
のけらうらうら [目] も世向の浮刺に流し
うらうらうらうらうらうら



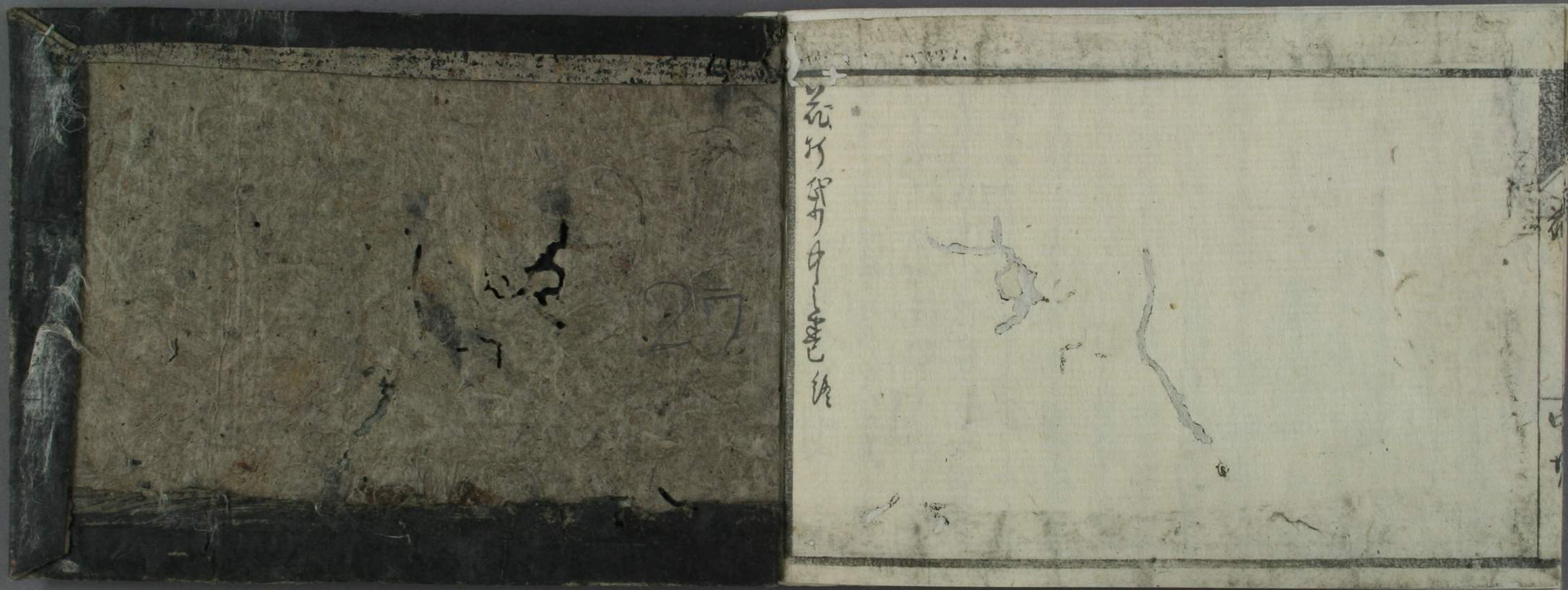
晴 昔茶唐 松蔭作



廓 通遊子 二六伴作

[目] 中や唐のまふを矢に降ゆの夜更のちや
けけ文のあうらうらをさしひをを掃掃のま
されまはら 郭世遊子共いひあつらうら
あうらうらうらおもりれあうらうら
いあうらうらうらうらうらうら
らうらうらうらうら

○ 巻軸



花
鳥
中
に
見
え
る

